

○総合地球環境学研究所における研究活動の基本方針

総合地球環境学研究所運営会議

平成22年12月20日 承認

この基本方針は、総合地球環境学研究所(以下「研究所」という。)の基本理念および研究所が行う研究活動等の基本方針について定めるものである。

I. 研究所の基本理念

研究所は、現在人類が直面する地球環境問題を、「循環」「多様性」「資源」の3つの問題群とこれらを時間と空間の広がりから検討する「文明環境史」「地球地域」の5つの視点からなる領域プログラムをおき問題の本質である「人間と自然の相互作用環」の解明(認識科学的アプローチ)にあたるとともに、真に豊かな人間社会の実現をめざす「未来可能性」の探求(設計科学的アプローチ)を試みる。この試みには、既存の学問分野の枠組みを超えた新たな総合的視点に立つ「地球環境学」の構築が不可欠である。研究所は、大学共同利用機関として、地球環境問題に取り組む国内外の大学その他の研究機関等と連携しつつ、総合的な研究プロジェクトを推進しながらこの使命を達成する。

II. 研究所における研究活動

研究所は基本理念を実現するため研究プロジェクトを実施するとともに、その成果の統合と成果発信のための諸活動を行うほか、様々な研究活動を展開する。

1. 研究プロジェクト

- ①研究所は基本理念を実現するために、研究プロジェクト方式による共同研究を実施する。研究プロジェクトは、学問分野を異にする研究者の集団による徹底的な論議を通じて研究内容を具体化し、研究所の基本理念との適合性および実現可能性を検討するプロセスを経て立ち上げる。またその採択にあたって、さらに実施期間中において、国内外の外部有識者で構成される研究プロジェクト評価委員会(以下、「評価委員会」という。)による研究の進展段階に応じた厳正な評価を実施し、研究プロジェクト採択の過程の透明化を図るとともに研究内容の質の向上を図る。具体的な評価実施要領については評価委員会が別途定める。
- ②研究プロジェクト方式を円滑に運営し、研究所の基本理念を実現するために、別表による研究領域プログラムと未来設計イニシアティブとを設定する。
- ③研究プロジェクトとして、研究所がイニシアティブをとって立ち上げる「基幹研究プロジェクト」及び研究者コミュニティから研究テーマを広く公募し立ち上げる「連携研究プロジェクト」とを設ける。
- ④研究プロジェクトは研究所の研究活動の根幹をなすものであり、その具体的な実施プロセス等については別途、規則を定める。

2. 人間文化研究機構が実施する事業

研究所は人間文化研究機構(以下「機構」という。)を構成する一機関として、人間文化にかかわる新たな学問領域の創成に寄与し、学術研究全体に貢献するために機構が実施する事業に積極的に参画する。これらの事業の成果は研究所における研究成果と同等であるとみなす。

3. 外部資金により実施する研究活動

研究所は、国からの運営費交付金以外の外部資金による研究活動を行うことができる。但し、実施する研究の内容については、研究所の基本理念を実現するためのものであることを前提とし、その研究成果を広く研究所の研究活動に還元することに努める。

外部資金により実施する研究活動の実施に関しては別途定める。

4. 研究活動の支援・推進

研究所は、前述の研究プロジェクトやそのほかの研究活動を多面的に支援・推進するために以下の活動を行う。

- ①国内外の研究機関との連携推進及び地球環境学に関する世界的な動向調査・情報収集等を通じた研究所の中長期的な研究戦略・将来計画の策定。
- ②地球環境学に関する情報分析、研究情報に関するデータベースのネットワーク化、アーカイブスの構築、実験施設の管理運営及び新たな実験手法の開発等を通じた研究プロジェクト支援。
- ③未来可能性のある社会構築に向け、未来設計イニシアティブの基本的な枠組みに立脚した研究成果の統合及び新たな研究シーズの発掘。

III. 研究所における研究成果の発信

1. 研究成果の公開・発信

研究所のすべての研究活動による成果は、個人研究又は共同研究に関わりなく公開を原則とする。

2. 社会還元

研究所は、シンポジウム及び出版等を通じて、国内外の研究者や一般市民に向けての効果的な研究成果の発信を行う。研究成果の発信は、研究を通じて明らかにされた事実を社会に広く周知するとともに、市民との間での双方向の発信を目指す。さらに、未来設計イニシアティブでデザインされた未来社会の実現に向けた取組を追求する。

なお、「研究プロジェクト実施方針ー研究プロジェクトの基本的な考え方ー」(平成19年11月19日運営会議承認)は廃止する。

以上

別表

研究領域プログラム

循環領域プログラム	人間の生存圏を中心に循環する、水、大気、炭素、窒素などの「モノ」の過不足、不均等な分布、過剰使用などがもたらす諸問題を扱う。
多様性領域プログラム	近年問題にされる生物多様性(遺伝的多様性やニッチの多様性を含む)のほか、言語、社会構造、宗教、世界観など文化の多様性の喪失を主たる要因として生じた地球環境問題を扱う。
資源領域プログラム	人間の生存を支える食やエネルギー及びその生産手段である農林水畜産業に関わる問題や人間の健康・栄養などの身体に関わる諸問題を扱う。
文明環境史領域プログラム	「人と自然の相互作用環」としての地球環境問題の歴史を学際的観点から解明する。
地球地域学領域プログラム	地域と地球環境の関連に焦点をあてた、従来のどの学問分野にも属さない全く新たな地球環境学の枠組みを構成する新学問領域。

未来設計イニシアティブ

風水土イニシアティブ	水・土・大気を人間の生存と社会文化の存在基盤としてとらえ、過去・現在・未来および地域・地球を往還した統合理解。 文化を踏まえたしなやかで誇りの持てる地域の風水土のあり方を提言する。
山野河海イニシアティブ	山野や河海から提供される生態系サービスを支える生物多様性と、生態系を持続的に利用してきた技術・智慧・文化多様性との相互作用の解明。 将来にわたり環境負荷が低く豊かな生活を実現するのに必要な資源管理のあり方を提言する。
生存知イニシアティブ	食とその生態形態である農、さらには健康に集約される生命と環境の関係の知的集積。 多様な思想、文化や環境条件のもとで共存可能な人間のよりよき生き方を提言する。